

リアルタイム線量測定システムの配置の見直しに関する住民説明会（南会津町）

議事録

日時：平成30年11月5日（月）18：00～

場所：御蔵入交流館 多目的ホール

議事

○南山総括調整官 皆様、おぼんでございます。定刻となりましたので、リアルタイム線量測定システムの配置の見直しに関します南会津町の住民説明会を始めさせていただきます。

会場の皆様には、お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

また、南会津町役場の皆様にも大変お世話になっております。ありがとうございます。

原子力規制庁の説明会の説明者の紹介をさせていただきます。

私の左手側から、東京から参っております本庁の武山監視情報課長でございます。滝田補佐です。それから、一番向こうに伊藤がおります。

それから、福島県内に在住しております、まず、南相馬の規制事務所から河村専門官でございます。それから、福島市の現地対策本部におります鈴木専門官でございます。

申し遅れました、私、司会進行を務めさせていただきます福島総括調整官の南山と申します。どうぞよろしく願いいたします。座らせていただきます。

まず最初に、本日の説明会の進行につきまして若干御案内させていただきます。

初めに、原子力規制庁の武山課長より、お手元の資料に基づきまして説明のほうをさせていただきます。

その後、その次に、会場の皆様より御質問、御意見を頂戴したいと思っております。御発言につきましては、お手を挙げていただき、係の者がマイクをお渡しいたしますので、座ったままで結構でございますので、お話をいただきたいと思っております。

説明会の終了時刻でございますが、会場の都合もございまして、本日20時までとさせていただきます。

なお、この説明会でございますけれども、この説明会の模様につきましては、映像、音声を記録させていただき、後日、原子力規制委員会ホームページのほうで公開をさせていただきます。よろしゅうございますでしょうか。

それでは、説明のほうを、武山課長お願いいたします。

○武山監視情報課長 南会津町の皆様、こんばんは。まず御説明をする前に、私、原子力規制庁、監視情報課長の武山と申しますけれども、原子力規制委員会、原子力規制庁ですね、これがどういうところかということを中心に御紹介させていただきたいと思います。

平成23年の3月の福島第一原子力発電所の事故が起きましたけれども、この事故を教訓として、それまでの原子力の規制組織ですね、政府の規制組織、これを全部解体をしまして、新たに平成24年の9月に発足をした組織でございます。

この任務は、原子力の確かな規制、これを行って、人と環境を守ることが任務になっているところでございまして、5人の学識経験者からなる委員で構成しております。

その事務局として原子力規制庁という組織がございまして、我々はその一員ということになります。

仕事としては、規制ということですので、原子力発電所とか、そういったところの原子力施設に対して審査・検査を行っていくということでございます。それによって事故を防止するということがまず第一でございます。

それから、万が一事故が起きたという場合に、避難、一時移転、こういったものについての技術的な判断ということを行うということでございます。

また、我々、監視情報課というところがありますけれども、こちら全国、北海道から沖縄までモニタリングポストが設置されています。我々はそれに基づいて、放射線の状況を確認をしていくということでございます。そのような仕事をしているということでございます。

では、お手元の資料でまず3ページをお開きいただければと思います。「はじめに」ということでございます。

今回、今日の説明会の趣旨でございまして、皆様と一緒に考える会ということでございます。

事故の直後、多くのモニタリングポストを我々設置をしましてまいりました。後で御紹介いたしますけれども、モニタリングポストの数値がだんだん下がってきているという状況でございます。このような状況を考えたときに、今後、このモニタリングポストについてどうすべきかということについて、我々としては考えていかなければいけないのではないかとこのように考えているところでございます。

もちろん、我々はそういったものを設置して運用するということですので、一定の予算

も要りますし、耐用年数といったものもございます。こういったものも考えなきゃいけないということでございます。

今日、一つの御提案を、我々が考えている、こういうことでどうかということの御提案をさせていただきますけれども、それに対して皆様がどうお考えになっているかということについて、率直な御意見をいただければということで、今日は参った次第でございます。

次のページを開いていただければと思います。

放射線監視体制というのがございます。赤い丸とかいっぱいついていますが、この赤い丸が、学校、幼稚園、保育園などの子どもが活動する施設に設置をしているモニタリングポストの分布でございます。このような形で全県的に置いているということで、2,974台、7月2日時点でございますけれども、ございます。

それ以外、緑色で丸がついております。可搬型モニタリングポスト576台でございますけれども、こちらは学校とかではなくて、主に公共施設が多いですけれども、こういったところに、大体5キロとか10キロというメッシュで置いているというものでございまして、全域的なカバーをするということで置いているところでございます。

それから、青い四角で水準ポスト12台とございます。こちらは全国都道府県、モニタリングポストを置いているわけですが、各県です、全国的にどのような水準になっているかということと比較するということで置いているものでございまして、これが福島県内は12台とございます。

これは実は事故以前は、各都道府県1台ずつ置いていたんですけれども、事故が起きた後に増やしまして、増やした数は250台余り増やしましたということで、現在は全体としては約300台ぐらい置いているわけですが、このような形で福島県には12台置いているということでございます。

それから、三角で監視ポストというのが39台ございます。こちらは福島第一、第二原発の大体30kmの圏内を中心に置いております。こちらは第一原発、第二原発で何かがあったというときに、こちらのポストで検知をして、それでもって必要な対策を打つというものでございます。そのような形で福島県内にはモニタリングポストが置いてあるということでございます。

あと、これ以外に、国ではないですけれども、県、あるいは、市町村のレベルで幾つか置いているところもございます。

それから、次のページをお開きいただければと思います。南会津町にあるポストという

ことをごさいますして、左側にあるリアルタイム線量測定システムと呼ばれているポストでございすが、39台あります。こちらが学校とか保育園とか幼稚園というようなところに置いているものでございす。

右側にある可搬型モニタリングポストというものがございすけど、こちらが町の中で大体均等にある程度置いているというものでございすけれども、これが11台ございす。

可搬型モニタリングポストというふうに書いてありますけれども、元来は場所を移動できると、可搬型ということですので、移動できるということですがけれども、実際にはこういう形で固定をして、太陽電池とバッテリーで動くという形で置いているものでございす。

左側のリアルタイム線量測定システムも、これも太陽電池とバッテリーで動くわけですがけれども、両方とも表示がついております。赤い表示がございすけれども、昼間の7時から夜の7時まで表示がされるという形でついているものでございす。

それから、あと細かい話ですけれども、測定範囲が少し違ってございまして、リアルタイム線量測定システムのほうは、99.99というところまで4桁の数字を表示するというので、そこまで測ることができると。

可搬型モニタリングポストのほうは、これ実は単位がいろいろ幅広くございまして、大きなところで10万というふうに書いてありますけれども、そのぐらいのところまで測ることができるとございす。低いレベルのところは誤差が低いと、精度がいいという形でついているものでございまして、先ほど御紹介しました原発ですね、原発の周り30kmのところにおいてあるポストと、監視ポストと同じようなものでございす。

それから、次のページを開いていただきますと、水準ポストというのがこの南会津町のほうには1台ございす。こちらは全国の都道府県との比較をするために置いてあるわけですがけれども、こちらは主に低い線量ですね、10 μ ということですが低いところではございす。

先ほどちょっと申し上げ忘れましたがけれども、単位がちょっと若干、Svと書いてあったり、Gyと書いてあったりして、ちょっと紛らわしいと思ひますけれども、このGyと書いてあるものが実は空気に吸収されるエネルギーの量を表してございまして、それを人体への影響を勘案して換算したものがSvという単位、シーベルトという単位になりますけれども、こちらのほうになっているということではございす。

大体、基本的には、Sv、Gy、シーベルト、Gyはグレイと言ひますけれども、基本的には同じものと、同じ1対1ぐらいになるということでは、同じ数字だというふうにお考ひいただ

ければと思います。

あと、すみません、ごめんなさい、今の5ページのあれですね、リアルタイム線量測定システムのところの絵なんですけれども、ちょっと富士電機製39台とここは書いてありますけれども、富士電機製は10台でございまして、あと29台が日本電気製でございまして、ちょっと形が少し違うものでございます。ちょっとここは訂正させていただければと思います。大体、基本的には性能等是一緒でございまして。

それから、7ページを開いていただければと思います。

放射線量の状況ということで、青い帯と緑色のグラフが描いてございます。

まず、緑色のところが、これが南会津町での先ほど御紹介しました学校などについている39台の線量測定システムです。それを足して平均をとったものですね、月々の平均をとったものでございますけれども、このような形で推移しているということで、大体、横にずっとなってます。くぼんでいるところは、雪などでいわゆる地面が遮蔽されて、それでもって線量が下がるという形になりますけれども、このような形になっています。

青い帯なんですけれども、青い帯がこれは全国の大体水準の範囲ということを示しております、これは47都道府県に1基ずつ設置されていたモニタリングポスト、水準ポストというものですけれども、その事故以前の17年間の測定値の1日の平均値の範囲を表しています。

一番低いところだと青森県で0.01、一番高いところだと山口県の0.115というレベルになりますけれども、この範囲があります。南会津町のモニタリングポストも、大体この間にずっと入ってきているということが見えると思います。

それから、次のページですけれども、先ほど39台全部足した平均でしたので、今度はじゃあ1台1台ですね、1台1台がどういうその放射線レベルにあるのかということについてグラフにしたものです。これは昨年4月から今年3月まで1年間の平均値で表していますけれども、これの見方です。例えば、10と書いてありますのが二つございますけれども、これは例えば一番左側が0.03～0.04という間に10台ありますと、こういう見方をするわけでございます、一番高いところだと、0.09～0.10の間に2台というのが高いところにあるということで、このような形で1台1台の分布があるということでございます。

それから、9ページでございまして、福島第一原発の現状ということでございます。

こちらは、福島第一原発ですね、今は廃炉作業などを行っている、いろいろ現状と

いっても幅広くございます。我々が今回御紹介させていただくのは、特に原発から放射性物質が飛んでくるということが一番懸念されるわけですし、したがって、気体とかガスですね、そういったものの放射性物質が今どうなっているかということでございます。

まず一番最初は、原子炉建屋からガスが放出されているまだわけですけれども、原発の敷地境界で1万分の5mSvと、 μ Svに直すと0.5 μ と、これは1年間ですけども、1年間そこにいと、そのぐらいの被ばくをするというところの未満になっているということでございます。

これは、このガス状の放射性物質による被ばくですので、当然、バックにもう既に汚染されている土地ですので、そこからの線量の寄与ということは考えていませんけれども、いわゆる、ガス状のものだけで考えると、このような形になっているということでございます。

それから、あと、がれき撤去などの作業、いろいろ作業をしているわけですけれども、今はこの敷地境界の大気中の放射性物質の濃度というのが法令基準以下になっているということを確認をしているところでございます。

こちら、法令基準というのは、例えば、セシウム134という物質がございまして、それだと1m³当たり20Bqという数字になります。こちらはそういうものを1年間吸ったとしても、被ばく線量としては1mSvだというレベルでございまして、そのような基準よりも低くなっているということの確認をしているところでございます。

それから、10ページでございまして、見直しについてというのがございます。

今まで現状を御説明させていただきましたけれども、今後、我々のほうで、3年間をかけて見直しをしようというふうに考えていたわけですけれども、その一つの姿として、このような形でどうだろうかということの御提案の一つでございまして。

何を言っているかといいますと、まず、緑の可搬型ポストとか、青い水準ポストとか、原発周辺の監視ポストと、こういったものは当面残すという形でございます。

その赤いほうですね、赤いポツのリアルタイム線量測定システムというものを、これを配置を見直したいというふうに考えているところでございまして、低いところですね、特に浜通りのほうはちょっと難しいと思いますけれども、中通り、あるいは、こちらの会津のほうとかですね、そういったところについて、基本その除染基準である0.23 μ Svという基準が1時間当たりのやつがございまして、それよりも低いところについて撤去をして、それで、より高いところのほうに持っていくとかということができないかというふ

うに考えているところでございます。このような形でどうだろうかというふうに考えているところでございます。

次のページ、11ページでございますけれども、先ほどモニタリングポストを御紹介させていただきましてけれども、これはいわゆる地面に固定されている形ですので、ちょっとそこから離れたところの放射線量というのを測ることはできません。モニタリングポストも当然設置するにはいろいろ制約がございますので、ここに、うちのほうの手元にこういうものがありますけど、こういうハンディなものが実はモニタリングポストにかわるようなものがあります。これ、実は各市町村ですね、ちょっと南会津町さんのほうには、これは今は貸し出してはいないんですけれども、いろいろなほかの市町村なんかも、こういうものを使って身近なところを測るということ、住民の方が行ったりとかするということ、なされているところでございます。

我々、そういう意味で、モニタリングポストと、このようなハンディな線量計と、こういったものを組み合わせて、放射線の状況というのを確認していくということが大事なのかなというふうに考えているところでございます。

今日、このように現状と、それから、一つの提案という形でお示しをしたこの案ですね、これについて御意見をいただくわけですけれども、また、今日は20時までということで、ちょっと若干時間の制約もございますので、後でまたこういうことが聞きたいとか、ああいうことが聞きたいとかということがあるかもしれません。その場合に、この12ページ、次のページにあります窓口ですね、こちらをフリーダイヤルで設けさせていただいております。平日、土日・休日です、このような時間で受け付けをしておりますので、このようなところについても活用していただければと思います。

私からの説明は以上でございます。

○南山総括調整官 それでは、皆様方からの御質問、御意見をいただきたいと思っております。御発言を希望される方はお手を挙げていただけますでしょうか。どなたからでも結構でございますので。

では、後ろの方。

○参加者 オオタケというんですが、今の説明ですと、南会津町に関しては、このあれかな、学校とか保育所にあるこのリアルタイム線量測定システムについて見直していきたいという話だったのかな、そういうふうに思ったのだが、赤い丸のあるやつね、その見直していきたいということは、どういう意味なのかね。撤去をしていきたいということなの

か、そういう方向だと思うんですけども、それは、その理由と、ちょっと理由がはっきりわからなかったものですから、その理由と、そういう今後の時期というのかな、何年ぐらいで撤去していくのかなという、そういった方向がちょっとまだわからなかったものですから、それも含めてと思います。

○武山監視情報課長 まず理由は、この7ページとか8ページで、一応、放射線量の状況というのを御説明しましたけれども、これがある意味低いということでございまして、線量がですね、これが先ほど私のほうで除染基準0.23と、こういう数字を言いましたけれども、これよりも低いと。さらに言うと、全国レベルにも落ちついているということでございますので、まず低いところですので、もうお役御免なのではないかということがまず第一ですね。それが一番大事ですということでございます。そういうことで、こういうものはまず撤去ができるのではないかとこのように考えています。

あともう一つは、これ撤去しても、まだ実はもう、まだ耐用年数は大体8年ぐらいなんですけれども、ただ、機械もいろいろ使えるものもあつたりするので、そういうものは有効活用したいと思っていますので、有効活用する一つの案としては、ちょっと高いところとか、そういったところで、そういった一部部品を使ったりとかして有効活用したいなというのがあります。このような形でございます。

○南山総括調整官 時期的なところはいかがでしょうか。

○武山監視情報課長 時期なんですけれども、時期は今は一応3年ぐらいかけて、だから、平成32年度いっぱいぐらいまでに、特に線量が低いところから順番に、そういうことができないうふうになっているところでございます。

○南山総括調整官 よろしいですか。・・・

○参加者 理由と時期については今話を伺ったんですけども、実は、私ら南会津町にいる場合において、非常に線量が今のところ低いというのは安心してはいますが、実は心配しているのは、この新潟県の柏崎刈羽ですね、向こうのほうの事故があった場合のほうが南会津は近いということで、そっちのほうがむしろ心配しているわけなんですよ。

この東日本の大震災があった後も、熊本県とか、最近では大阪とかね、北海道とか、いろいろ地震が頻発していますので、今後もそういう心配があるというようなことで、まだまだ、そういう監視といいますかね、そういうものはやめる必要はないんじゃないかと私は思っております。

それから、あと、第一原発に関しても、これはもちろん廃炉作業がまだまだ終わって

ないということがありますので、やはり、今後もその事故の心配ですね、いろんなミスが想定されますので、やはり、そういう観点から、今は低いといっても安心するのはちょっと早いんじゃないかと私は思っております。

○南山総括調整官 御意見としてお伺いをさせていただきました。ありがとうございました。

では、次で、一番前の赤いジャケットの方。ちょっとお待ちください、マイクを持ってまいります。どうぞ、座ったままで結構でございますので、座って……。

○参加者 これ、観測点を減らすというのは基本的な考えですね、おたくのほうの。絶対に今やっている工事ですね、原発の事故処理の工事が失敗しないというような、そういう前提に立っているわけでしょう、これは。

私は、テレビで見る限りですが、原子炉の中の状況というのは、まだわからないというかね、一部はわかっているみたいですが、ほとんどわからないというような。それから、ここ随分、クレーンが壊れたとか、設計がまずかったとか、時々放送でされるんですが、これは人間がやる仕事ですからね、それは事故が起きるということはもう前提に考えていかなくちゃならないんですよ。

だから、あんたらの今こういうものを出してきた理由というのがね、原発事故が起きたときと同じように、絶対に起きないというふうなことを前提にして観測点を減らすというふうな。

放射能の減衰が30年あるからいろいろ言われていますが、とにかく今はね、現状でもう少し観測点をですね、我々心配するのは、今の測定器というのは1mの高さの放射線の量でしょう。だから、ここにもあるガス状というのが書いてありますが、そのほかの微粒子なんかもね、それは飛ぶあれはありますよね、放射能を帯びた微粒子が。

だから、我々としては、やはり関心が今は薄れてきているようだけれども、やっぱり我々としては声を大きくして、原子力の不完全な技術に対する我々の考え方というのを、そうすれば、もうこういうような減らすというのは、ちょっとまだ早いんじゃないかなというふうな、そう思います。

以上です。

○南山総括調整官 今、御意見としていただいたというわけですけど。

どうぞ、座ったままで皆さん結構でございますので、ぜひ座ったままで御発言ください。今の御発言に対して何かコメントございますか。

○武山監視情報課長 御心配はよくわかります。本当に。

我々、そういう意味で、実は今回、これも先ほど御紹介しました可搬型モニタリングポスト11台ですね、こちらを残しておけば、もし仮に福島原発で何かあったときには、こちらをまず使って、この土地ではどうなのかということを見ることができるのではないかとこのように考えていたところなんです。

加えて、福島第一原発の周辺は、先ほど監視ポストというのがありましたけど、そちらのほうでも観測をしますし、先ほど別の方だと柏崎刈羽のほうも御心配だということで、こちら柏崎刈羽のほうも同じようにモニタリングポストを、まあ、福島ほどではないですけども、原発の周辺に数多く設置しているということでございまして、こういった物を使って、万一何かあったときには対応するというのを考えているところでございます。

あとはもう一つは、いろいろほかの住民説明会とかで御意見があったんですけども、数を減らしてしまうと、一番例えば自分が住んでいるところの近くのポストがなくなってしまうと、ちょっと不安ですとかという御意見もあつたりとかしますので、いろいろそういう御意見もあるのかなというふうに考えているところでございます。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

後ろの背広の方、ちょっとマイクを持っていきますので。

○参加者 説明資料の8ページのところで、一応、南会津は大分低いというふうに聞いていたんですが、この0.06~0.07が7カ所、それ以降、1カ所、2カ所、2カ所となっているんですが、これはどこいら辺なんですか。現在でもこの高い数値が出ているのか。今までの私らのテレビのこういう放送で、NHKなんかでやっているあれから見ると、考えられないような数字に出ているんですが。

○南山総括調整官 どの点かというのを具体的にお示してください。

○滝田課長補佐 滝田でございます。私のほうからお答えさせていただきます。

0.08ですね、これ平成29年の4月~平成30年の3月31日までのデータでお答えさせていただきますと、この南会津町で一番高いとされているのは、南郷小学校ですね、それから、館岩小学校が0.08という平均値がこちらのデータではございますが、こちらのグラフで表しているのが0.09~0.1というこちらの平均ですけど、そういう意味ではこの2台がこちらに当たると。

その次が、田島第二小学校と田島小学校、そちらがこちらの8ページでは0.08~0.09のものに当たるもの。

あともう一つが、荒海小学校が1台、そちらが0.07~0.08に当たるものというふうになっております。

○南山総括調整官 すみません、マイクでお願いいたします。

○参加者 0.06~0.07が7カ所ですよ、それはどちらですか。

○滝田課長補佐 南会津高等学校、それから、南会津中学校、それから、こちらの交流館、それから、内川生活改善センター、それから、桧沢小学校、それから、南郷保育所、それから、館岩たのせという、以上の七つでございます。

○参加者 ありがとうございます。これらが何て言うんだべな、すごく低いという認識と、その…になってないから。だから、そうなると、じゃあ、以前はこのモニタリングポストが設置される前ですね、前というのは、以前の場合の、じゃあ最初、この南会津の最低という数値だったのかというのはわかりますか。

○武山監視情報課長 これはたしか福島県さんのほうで平成10年ですかね、ごろに測定したことがございまして、それは田島町、市町村合併する前なんですかね、田島町で0.038というレベルですね。あとは、伊南村というんですかね、そちらが0.053、これが今は南会津町になっていると思いますけれども、その二つがございましてね。そのぐらいのレベルになっていたということでございます。

○参加者 これは平成13年。

○武山監視情報課長 平成、多分、10年だったと思いますね。ちょっと……。

○参加者 そういう数値からしても、すごく南会津町は以前、直接、このいわきのほうから来たんじゃないかと、逆に栃木のほうから4号線を登って栃木のほうから来た。塩原とか、そっちのほうが大分数値が高いんですけど、逆にそちらのほうから南会津のほうは風向きで来て被ばくというか、この数値がね、一応、出てきたというふうに私らは聞いておるんですが、その内容は間違いないんですかね。

○武山監視情報課長 第一事故のときですよ、それは。そうですね、ちょっとごめんなさい。確かに、そのとき風向きが結構変わったんですね。変わっているんで、今おっしゃったようなルートもあったかもしれません。ちょっとどうなっているかは、ちょっと私も正確にはあれですけども。結構ぐるっと回ってきたということになっていると思います。

○参加者 じゃあ、最後です。うちらはやはり不安視するんですよ。皆さんが話をされても、本当に正しい数値というのが、本当にちゃんと出されてこなかったんじゃないのかという不安、不信も持っています。

そういう意味では、一方的な方、一方的な方という、こういう話し合いを持っているでしょうということになるかもしれませんが、やはり、本当に安心がやっぱりちゃんと担保されるまで、一遍にこういうふうには減らすのではなく、やはり、そういった経過を十分に見据えながらやっぱりやっていくというのが、今回のやっぱり取り扱いの中でも必要ではないかというのが私の考えでございます。

ぜひ、そういうところも十分に、今回話したから、そして、こういう意見だったからということで、多分、そんな大賛成なんていう方は、多分、これだけの事故があって、まだ風評被害もあるわけですから、そこまでやっぱり割り切ってわかりますかというふうにならないと思いますよ。ぜひ、そういうところは、皆さんのほうにも考えていただきたいというふうに御意見を申し上げて終わります。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

ほかに。

じゃあ、一番後ろのネクタイの方。

○参加者 重複するかもしれませんが、やはり、その数字に関しては、私も信用性がちょっと信じられないような状況なんですよ。しかも、やっぱり3.11終わって今は7年、8年を迎えると。そうすると、機具の耐用年数だけを見て言ってもらえるような受け止め方になると、今、先ほど前任者が言われたように、風評被害がまだまだ影響を受けているんですよ。現実、今はその館岩というところはね、リゾート地域だと言っているけど、客足はもう前の10分の1ぐらいになっちゃって、本当にお客さんがいなくなっちゃっているんですよ。

そんな中で、やっぱりこういった機具を引き上げられるということ、不安要素だらけになっちゃって、やっぱり日本の再生を考えたときに、福島の復興なくして日本の再生なしというキーワードがあったわけです。ところが、いまだかつてこの風評被害がもうかなり、私も農家やっているんですが、農作物に関しては影響を多大に受けているんです。そういう関係に言ったときに、もう少し慎重にやっぱりやっていただいて、時期尚早だと思いますから、やはり、そこは誰でもがね、安心できるような形で、まず風評被害が払拭されて、農作物のほうで雪も、あるいは、観光客の足もちゃんと元に戻ったということならいいんですが、あわせて、この日本人がね、日本の国の中でもう少し助け合い、互助精神があれば、やはり本当に福島の作物は食べても安心だというのなら、やはり全国的に本気になって食べていただいて。

いつ、どこで何が起こるか分からないほどのこの日本列島の火山国ですから、ここにお集まりの方々に、南会津の山にカルデラ湖がある山知っている方はいらっしゃいますか。もし、おりましたら手を挙げていただきたいんですが。わかっています。現実によると、南会津にはカルデラ湖はないと思っていたわけですよ。でも、カルデラ湖がある山は噴火する要素もあるということなんです。そういったことを考えていただければ、もう本当に慎重に考えていただいて、やっぱり国を挙げてこの絆、助け合い精神、そして世界を挙げて、ひいては、今度は地球上の問題にまでこの原発がなっているわけですね。

新幹線捉えてみれば500kmの猛スピードで、何でもかんでも九州から北海道までも、もう半日で走っていかなきゃなんねえなんて、そんなに進化する必要は私なんかはないと思うんですよ。夜は夜でいつでもコンビニで食べられるなんてやっているけど、夜間の運送業の方とか、限られた人たちを除けば、深夜に何でもかんでも食べ物を食べなきゃいけないわけですから、そうなったら、やっぱりコンビニの夜間の営業を規制をかけるとか、あと、今はガソリンだってぼんぼん上がっている時代で、もう全然、もう一昔前だったら、これ本当、ガソリンに規制かかってもおかしくないんだけど、こういう状態にいるわけですが、本当にこの日本の国はどうなるのかというぐらい、私らは危機感を持っているというのは、拍車かけて人口減少ですしね、そういったことを含めて、やっぱり安全で安心できるような県づくりで取り組んでいただくには、あまりにもこれ時期尚早だと思いますし、どうも血压、皆さん高齢者ですから、多分測ったと思うんですね。1回測ったとき高い、2回目測ったときはいいようになっている、3回目になったらちょっとって、どうもこのデジタル計が案外信頼できるようなできないような感じに私はなっちゃうんですね。

その辺も含めて、ぜひ、やはり存続していただいて、まずは風評被害が飛んでいって、やっぱり安心してこの南会津も、あるいは福島県も選んでいただけるようになったら外していただいてもいいんですけど、現状では時期尚早だと思いますから、ぜひ検討していただきたいと思います。

以上です。

○南山総括調整官 御意見ありがとうございました。

○武山監視情報課長 先ほど前の質問で平成10年か何かという話、平成10年ですね、平成10年度に福島県さんのほうで調査した結果が、先ほど言った0.038、0.053という値になっていました。

それで、ちょっと今の御意見の中でカルデラ湖の話があったんですけど、どのぐらい前

なのかおわかりになりますか、そのカルデラ湖があったというのは。

○参加者 ここ伊南村に山があるんですが、スキー場の上でカルデラ湖があるそうです。つまり、高畑スキー場の上に。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

ほかに御意見、御質問。

真ん中の。

○参加者 フクシと申します。

実は、このポストなんですけど、この減らすというよりは、むしろ、私らはこの計測法をもっと細かくしてもらいたいですよ。というのは、各学校とか公民館とかってちょっと高台のところにあるじゃないですか。実際にその線量が高いところは、全部山の下とか、くぼ地とか、そういうところが線量が高くなっているんですよ。もっと、沢筋や何かに行きますと、もっと高いはずなんですよ、相当。

その緻密な調査というのをほとんどなされないで、各地区、学校とか、役場の前とか、そういうところだけが測定地になっているので、山に入って山菜を採ったり、キノコを採ったり、仕事をしている人たちは、もっと線量の高いところで仕事をやっているわけですよ。その緻密な本当は資料があれば、もっと安全な作業ができると思うんですよ。

だから、そういう点では測定地を減らすんじゃなくて、むしろ緻密な調査をして、そして、その測定の資料を公開してもらえれば、非常に安心だというふうに私は思うんです。とりあえず一度。

それと、もう要らないからというのは、原発の処理が終わったわけでもないんでしょう。まだこれからですよ、一番大変なのはね。だから、できればやっぱり交換しても、それはお守りみたいに継続してもらうのが一番正しいやり方じゃないかと思うんですよ。全ての廃炉が終わったときに、それを撤去するというのが、一番妥当じゃないかと思うんですけど、いかがでしょう。

終わりです。

○南山総括調整官 2点ほど御意見あったかと思えますけど、何かコメントございますか。

○武山監視情報課長 まず、計測点を増やすということなんですけれども、もともとこれ実は我々が設置しているところも、基本的に人が集まる場所をまずやらなきゃいけないということでつけたわけですね。確かに、ほかの市町村さんでも御意見がありまして、そういうところじゃなくて、もうちょっと高いところもありますのでということでした。

我々もそういう意味で、実は説明の中にも紹介させていただきましたけど、こういうハンディなやつですね、こういうものを使って、やっぱりどうしても設置場所は制約があるので、やっぱり何か作業をして、ここは心配だということがあれば、こういうのを持っていきながら線量を確認していくというんですかね、そういうことも必要なのかなと思っ
ていまして、市町村さんによっては我々の設置しているポストだけじゃなくて、こういうものを使って、きめ細かく実はそれこそ500m間隔とかでやっているところもあったりする
ので、そういうものも合わせてやっていただければいいのかなというふうに、まあ、ちょ
と手間ですけれども、それが一番確実かなと思っていますということが一つあります。

それから、あと、おっしゃったように、廃炉はこれから本格的になりますので、いろ
ろ御心配があるということはおよくわかります。我々もそういう御不安をお持ちだとい
うことはよくわかっていて、我々としても、だから、どこまでモニタリングポストがどこ
まで必要性を皆さんお持ちなのかなということ、今回確認する意味でこういうふう
に聞いています。ただ、我々、当初は先ほど申しあげました可搬型モニタリング
ポストというものをまず置いて、これでもって、一つは何か御心配があれば、それ
で確認をするということもできるんじゃないかというふうに考えているところでござ
います。

ただ、ほかの市町村でも御意見があったように、先ほど申しあげましたけれども、身
近なところにあるほうがいいんですと、こういうことなので、なかなか減らすのは
難しいんですと、こういうことだと思っ
ていまして、こちらの今の御意見もその中に入ってくるのかな
というふうに思いました。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

ほかにありますか。

じゃあ、こちらの2番目の方。

○参加者 すみません、ありがとうございます。

まず、ちょっと私が考えているモニタリングポストのどうしてもらいたいかとい
うところをお話ししますと、結局、自分の家と、あとは主要なところは数字が具
体的に知りたい。それ以外は気象庁のアメダスみたいな感じで、例えば、西が真
っ赤で左が水色みたいな、要は雨が強いとか、晴れていますみたいな、そ
んな感じで放射能の線量グラフ、グラフではなく、絵的なものでぱっと見ら
れるようになってほしいなと思っ
ているのですが、現状、原子力規制委員会さんのホームページとか、あ
とは回覧板で回ってくるのも全て数字の羅列になっていますよね。そこを今
後、国策として原発をずっと続けていくんであれ

ば、やはり、そういった図みたいなのが、どこかで見られるようにしていただけたらなと思っています。いかがでしょう。現状、そういったプランはあるのでしょうか。

○南山総括調整官 現状やっていますので、ちょっと具体的に答えさせます。

○滝田課長補佐 私どものホームページで、多分、すぐ皆さんが御覧になって気づかれるのは、リアルタイム線量測定システムと一定の要するにポストですね、ポストがどこにあって、その線量が幾らかというのが数字で、今言われたような数字と表みたい形で表現させていただいております。

それはあくまでもポストでの数字でありまして、それ以外に我々としては、例えば航空機のモニタリングだとか、もしくは、カーサーベイ、車ですね、車に線量計を乗せて測るもの、そのほか、定点ですね、サーベイメータで定点で測るものなど、それ以外にも歩行ですね、サーベイでやるものなども一応やっております、一応、それがマップという形で一応サイトもあります。マップ拡大サイトというのが別のサイトございまして、一応それは色で示しているものでございます。

それ以外にも、年1回それぞれの事業で測定した結果が報告書としてなれば、報告書というベースでも記載させていただいております。

なかなかその辺のところ、表示が我々のサイトの見えにくいところ、そういった皆様の御意見もありまして、そういったところがわかりやすいように、今は鋭意、特に今年度、鋭意努力して、皆様に見て安心していただけるような表示の仕方というのは、この度の御意見もお伺いしましたので、鋭意努力してやっていきたいと思っておるところでございます。

○参加者 ちょっと、そのサイトを見つけられなかった、ちょっと私のほうも怠慢がありまして、具体的にそれを見つけられなかった、ちょっと週末ちょこちょこ調べたら、どうも、もう今は民間のラディエーションウォッチという非営利団体があって、そこがベースとなってスマートフォンに数千円単位の放射能計をつけて、それをいろんな人が持ち歩いて、それがビッグデータ化して普通に地図上で表示されるような、そんなのもう既にあるみたいなんですよ。

何が言いたいかというと、多分この線量計、置かれているものって、1台数百万とか、すごいと思うので、例えば、その精度を落としてもいいので、数を増やしていただきたいというのが住民的なお願いになります。ちょっと御検討をいただければと思います。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

いかがですか、そこら辺のところ。

○滝田課長補佐 今、民間のやられているのというのは、ちょっと私のほうでは情報がなかったのですが、ちょっと私のほうも勉強させていただきたいんですが、実はこれ今後どうなるかはまだ明確にはできてないんですけど、実は我々のほうも、実は皆様の例えば生活行動パターンに合わせて、実際、1日の被ばく線量から年間の追加被ばく線量というものが推定できるようなシステムというのをつくり上げておまして、できれば、そういった先ほど言われたような目で見えるマップを使って、皆様が例えばスマートフォンであればスマートフォンを持って行動されれば、その行動した範囲でどのぐらいの被ばく線量になるのかというようなところが表現できるようなものを、実は今、考えて事業としてやっている段階でございます。

そういったところも含め、先ほどの御意見も含め、我々としての皆様に安心していただける、やはりポストというのも、一つのやはり目で見える可視化なものというので、安心を与えるものというのはございますが、でも実際にはやはり先ほども御意見がありましたように、やっぱりポストではないところの別なところの高いところ、いわゆる、ホットスポットと言われているところですね。やはり、我々としてもポストではなく、そちらのほうも考えていかないといけないと。だから、そういったところで、トータルでポストの必要なところはこういうところである、いや、それ以外に必要ないろんな測定の仕方というものも含めて、トータルで今後どういったものが皆様に提供すべき最良のものかというものを、御意見もお伺いしながら詰めてきたいと思っております。

○参加者 ありがとうございます。

○南山総括調整官 先ほどのホームページのあれですけども、放射線等分布マップ拡大サイトというのを検索していただいても出るかなというふうに思います。放射線等分布マップ拡大サイトというのがありますので、そこを出ましたら見ていただければと思います。

じゃあ、一番向こうの方。すみません、行ったり来たりで。

○参加者 今後のスケジュール等についてお伺いしたいんですけども、県内で多くのこの住民説明会開催されておまして、新聞紙上等々については現状維持、撤去はアウトですよという意見が多いやに承知しておるんですけども、このような住民説明会をやって、各地域の住民の人たちの要望が強いよと、耐用は年数は8年ですけども、そこをやはり住民の安心を含めて、今後まだまだ継続して設置しなきゃならない、そういうことで31年度、32年に今度なるのかな、予算編成に、いわゆる、そういう住民の声を背景に皆さんのほう

で予算獲得に頑張ってください、見直しということじゃなくて、この見直しイコール減らすという考え方の説明会なんでしょう、今日は基本的には。そうじゃなくて、住民の声がまだまだあるので、ひとつやはり予算は維持しなきゃならないよと、そういう立場で、ひとつこれから対財務省の折衝などで頑張ってください、ありがたいなというふうに思います。

耐用年数が8年で終わるとなれば、また技術が開発されて、もっと安くて性能のいいような機種も出てくるのではないかなと、こんなふうに思いますので、そういう住民の声を背中にして、ひとつ皆さん頑張ってください、ありがたいなと、こんなふうに思っております。

今後のスケジュールについては、どういうふうにお考えなのか教えてください。

○南山総括調整官 ただいまスケジュールというのは、この説明会を受けて、例えば今年度なり、どういうことを考えているのかということでございますね。いかがですか。

○武山監視情報課長 スケジュールですけれども、今のところ、まず今月いっぱい、まだほかに二つの市町村で住民説明会を予定していますので、まず、それは行わせていただくということになります。

我々としては、まず、今回方針を出したものを、今年の3月に出していますので、1年たって、来年3月に1年たちますけれども、それを大体めどにですね、今までの住民説明会で出てきた意見を総括した上で、今後改めてどうすべきかということについて、原子力規制委員会でも議論をしたいと思っているところでございます。

それでもって再度どういうふうになるかということで、それによって、また改めてどういうふうな形にするかということについて、また皆さんと話をしたいと思っておりますけれども、今はそういうふうな状況になっています。

あと、予算の話ですけれども、一応、来年度の予算ですね、来年度、31年度の予算に関しては、まだ、まずは今のシステムを維持する形で今は要求しているところでございます。

また、来年度、再来年度になりますと、これ毎年毎年、また1年1年考えなきゃいけないことになりますので、その状況に応じて対応するということになると思います。

以上です。

○南山総括調整官 よろしゅうございますか。

ほかの方。

じゃあ、その女性の方。すみません、その次に……。

○参加者 大変初歩的な質問で申し訳ないんですけども、9ページの第一原発の現状というところを読んでみたら、建屋から放出されているガス状の放射性物質による被ばく線量はというふうに書いてあるところを見ると、この建屋から放出されているガス状の放射性は、絶えず出続けているということではないですかね。

そうしたら、ちょっと聞いた話なので正確かどうかは、こういうことが本当なのかなというのは、ちょっと疑問に思っていたことなんですけど、新幹線の中で、新幹線が福島県を通過する、郡山に近づいてくると新幹線の中の放射性のその測定機器が高くなるというふうなのを聞いたことがあって、それは本当に本当なのかなと、そんなことあるのかなと思ってたんですけど、こういうふうなガス状の放射性物質が絶えず現在もずっと出続けているということであれば、そういうことも考えられるのかなと思うことと、こういうのが出続けている状態なのであれば、やっぱり、そういうモニタリングというか、線量を測るということは、やっぱり続けてやっていかなきゃならないんじゃないのかなと思っています。

なので、そういう空間線量というんですか、そういうのが絶えず出続けているんですよ、結局。

○南山総括調整官 出続けているというところを少し詳しく。

○武山監視情報課長 まず、ガス状のものが出続けてはいます。ただ、ここに書いてありますように、敷地境界でこのレベルと書いてありますけれども、まあ、ちょっと新幹線の中まで行くかというところ、そこは多分ないと思っていまして、そんなところまでは行かない。

今この状況であれば、南会津のほうにも特にその影響はないと思っています。今、この状況であればですね。

いろいろ作業をして、これからまた核燃料を取り出したりとかすることになりますので、それがきちんと影響がないようにできれば、それはまあ影響はないんでしょうけども、もし何かあったときにはどうなるかというのは、ちょっとわからないところはあります。

ただ、極端なことを言うと、すごくここは福島第一原発からはやっぱり遠いほうですので、そう御心配しなくてもいいかなと我々は思っているところです。

ただ、放射性物質について、いろいろ皆さん、まだ御心配なところはありますので、あれかもしれないけれども、我々としては、そこまで、そんなにその影響はないだろうと思っています、これについてですね、というようなレベルだと思っています。

○南山総括調整官 ちょっと、モニタリング担当の河村さんから少し。

○河村上席専門官 私、福島第一規制事務所のほうでモニタリングのほうを担当しております河村と申します。

1Fの敷地の中と、あと、先ほど課長から説明があった監視ポストのほうには、そういったガス状の放射性物質をキャッチして測定をする機械も整備しているんですね。

それで測定もしております、敷地の中の状況はここに書いてあるとおりでございますし、当然、もちろんその外側で測っていても、何て言いましょう、そういった線量が上がったとかというレベルではないというのが今の現状です。

それで、先ほど新幹線の中で測るというお話があったじゃないですか。これですね、私、事故の後に東北新幹線に乗って自分で測って見たんですよ。新幹線に乗って、窓際の席に座って、窓際に私の持っている線量計を置いて測ってみたところ、やっぱり上がるどころはありました。これはガス状のものが飛んでいて上がるというよりも、私の理解では、事故によってセシウムを始めとするいろんな放射性物質が、福島県を始めとして、いろんなところに飛び散って地面に沈着しちゃったので、それで今も皆さん御存知のように、そのモニタリングポストの場所によっては、やっぱり線量が高いところも今でもあると思うんですね。そういったことで、地表面に沈着した放射性物質から出てくる放射線があるので、それをキャッチして上がるところがあるんだなというふうに思っているんです。

なので、郡山がやたら高いというわけでもないんですけど、確かに、東京から乗って測っていくと、福島県内に入って高いところ、福島県内じゃなくても、手前のところでもあったりもしますけども、そういった状況は確かにあったなというふうには理解しています。

ただ、そのガス状のものが普段からずっと飛んでいて、その影響で上がっているとかということではないというふうに理解はしています。

○南山総括調整官 よろしゅうございますか。

ちょっと、じゃあ、こちらの前の方、お待たせしました。

○参加者 ホシと申します。

3点ほどお伺いしたいんですけども、1点目は、この可搬型のモニタリングのポストですね、この機械が正常に働いているとか、そういったチェックはなされているのかということと、あと、可搬型だけになったときに、過去のデータも見ることができるのかどうか、それが第1点です。

第2点目は、原子力委員会のほうからよく言われているのは、空間は結構言われているんですけども、特に南会津においては、土の中とかね、木の中とか、これ産業に関わるこ

とですから、というのは、たまたま震災の前に薬草をつくろうかという話があったんですよ。ところが震災になりまして、爆発したよということになったら、もう一切、そういうところではできませんよと、ほ場事業もできませんよという話になりましたので、薬草もできるような状態に今は土の中はなっているのかどうか。

それから、3番目は、やっぱり一番初めに質問ありましたけれども、南会津郡にとって一番やっぱり怖いのは柏崎だと思うんですね。安全だ、安全だと言っているけども、やっぱり、むしろ、いわきよりは柏崎のほうが怖いと思っているのは事実だと思うんです。偏西風だとか、そういった関係で。ですから、その辺の原子力委員会のその考え方というのを、ちょっとこの3点についてお伺いしたいと思います。

○南山総括調整官 まず、ポストのデータのチェックですね、正常かどうかの。それと、過去のデータは見られるかということが1点。

それから、薬草のことは土ですかね、土の状況がどうか。

○参加者 木にどのぐらい長い間……。

○南山総括調整官 ああ、木のほうと。

それから、柏崎の件をどう考えているのかということ、3点ほどあったと思いますけど。

○武山監視情報課長 まず、モニタリングポストですね、これチェックは必ず1年に1回やっています。あと、それで狂ってないかどうかを見ているということになります。これは必ずやります。

基本的にはJISですね、日本工業規格というのがあって、それでもって精度が幾つぐらいじゃなければいけないかというのは大体決まっていますので、その範囲に入っているかどうかを見るというのが一つあります。

それから、過去のデータですね、これはもう見れます。我々のホームページになりますけれども、我々のホームページで過去のデータを1個1個のポストについて見ることができます。相当、もう事故後1年後ぐらいからですかね、ずっと見ることができますということになっています。

それから、土の中なんですけれども、基本、まず土の中はセシウムがだんだん今は深く入り込んでいる、地表面から深く入り込んでいるという状態にはなっています。それが一つあります。

あと、木なんですけれども、木はちょっと難しい、ちょっとこれは林野庁さんとかで今は調査を主にやっていると思いますけれども、まだやっぱり一部残っているところがある

と思っています。ちょっと、私は詳しくはないんですけども、そういう林野庁さんの報告書とかではいろいろ出ていますけれども、まだ、木には少し付着というか、中に入っていたりするのかなというのがありますけれども。

特に、ちょっと脱線するかもしれませんが、よく山菜がまだ汚染されているんですね。コシアブラとかというのが結構まだ、多分、南会津町でも出荷制限がかかっていると思いますけれども、やっぱり、どうしてもそういうセシウムが、そういうところに吸収されたりするところがありますので、そういう意味からすると、草とかはまだそういう意味では、そういう薬草をつくるとかというのは、いかがなものかなというふうに私は思います。

それから、柏崎刈羽なんですけれども、これは今は我々のほうの柏崎に限らず原発ですね、原発があるところについては、今は一応30kmを目安として、その30kmの円を描いたときに、その中にモニタリングポストを密に置くということで置いています。

つまり、事故以前は10kmぐらいだったんですけども、それを拡大して今は30kmを置いていたり、あるいは、原発がないところでも、各都道府県に複数台モニタリングポストを置いていたりしますけれども、そういう形で今は事故以前に比べたら強化しています。

我々、基本的には、もし柏崎で何かあったという場合には、今は当然、柏崎も新しい基準でもって許可されたわけですけども、これは津波に対する対策もそうですし、いわゆる、シビアアクシデントと言われている、原子炉が溶けちゃった場合とかはどうするのかということも含めて審査をして、一定の基準をクリアしているということで許可しているわけですけども、もし万が一、事故が起きた場合、これも先ほど言った30kmの県内のまづモニタリングポストでもって、いち早く放射線のレベルが上がっているかどうかを見ると。それによって避難するとか、一時移転をするとかということについて、ジャッジをしていくということにしていますということでございまして、それでもって。

あと、それ以外にも、実は我々は航空機でモニタリングをするということも行います。どうしてもモニタリングポストは限られていますので、もっと広範囲にわたって測定をしようとする、やっぱり航空機が一番ベストなわけですね。航空機を飛ばして上空から測定をするということもやりますし、あと、車ですね、車に積んでモニタリングをするということもやる。そういう幾つかをやって、とにかく放射線の測定をして、移転とか避難ということにジャッジをするということの体制を組んでいるところです。

○南山総括調整官 よろしいでしょうか。

○参加者 一番心配するのは、例えば、福島原発の場合に、爆発しないよといって結局は爆発したと、それから動き出したと。現実的に30km圏内を非常にシビアに見ているんだと言うけども、結果的には100km以上も先までそういった影響が出ているわけですね。

ですから、対策をとるときには、やはり想定外というのは非常に小さい数字で想定しているわけですから、想定外という言葉が出ないような、やはり、もっと万が一が大きくなった場合、どうするんだということを、やっぱり住民の人とかね、そういった方にわかるようにしないと、また隠しているよということで、ますますそれが上乘せになって、いや、委員会の言葉は信用できないということになると思うんです。

ですから、なるべく広くのことを、万が一こういうふうな可能性があるよということ、逆に発表したほうが信用性が出てくると思うんですよ。常に一皮むいていくと、だんだん悪いほうの噂ばかり出てくるので、ですから、そういったことと、やっぱり今回のこのポストの件は、予算が少ないからそうなるんでしょうけども、やっぱり、これ削ってでも、私は土だとか、それから、木の中がどうなっているかということ、もっとあからさまに定期的にやっぱり検査をして発表してほしいと、そんなふうに思います。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

何か。

○滝田課長補佐 ちょっと私のほうから補足させていただきます。

木のほうはちょっと今データ等を持ち合わせしてないんですけど、土に関して、土壌に関しては、規制庁は基本的にはこれ80km圏内が中心になって、一応、土壌での測定して、その結果については公表させていただいております。

それ以外に、一応、農地土壌ですね、農地土壌については、農林省のほうで調査されておりまして、それが年1回調査した結果をホームページのほうで公表されておりますので、よろしければそちらのほうを御覧いただければと思います。

○南山総括調整官 じゃあ、2番目の方。

○参加者 カワシマと申します。よろしく願いいたします。

結論から申し上げますと、私もやはり時期尚早かなと、そんなふうに思います、リスクマネジメントの観点からですね。

これから述べる三つの点から述べたいと思いますけれども、一つは、まだその非常事態が続いていると、原子力緊急事態宣言ですね、これがまだ解除されていないということがあります。政府のほうでは事故終息宣言をしましたがけれども、福島県、多くの方はまだ終

息しているとは実感はないと思います。

ロードマップなんかを見ましても、30年～40年かかると。そういったスパンを考えると、まだ7年しかたっていないと考えると、非常にまだまだ時期尚早かなと、そんなふうにまず考えております。

デブリ、どのような状態になっているかは、それすらまだわからない状態ですね。これから作業が始まりますけども、いつ爆発するか、また大地震ですね、また津波、防潮堤もまだつくっておりませんよね。そんなことを考えると、今は安全かもしれないですけども、いつ地震、それから、台風、異常気象も今は続いていますよね。そんなときに対応できるのかということがまず大きな心配です。私もその新潟の柏崎のことを心配していますけども、それが1点。

それから、2点目は、まずは私は子どもを守る、これが大原則だと思うんですよね。なので、順序性から言うと、小学校だったり、幼稚園、保育所、ここから外すというのはまずどうなのかなと。まず守るべきは子どもたちの命じゃないのかなと、私はそう思います。なので、その辺の順序性は後でお聞きしたいと思います。

子どもたちを守るといった場合に、子どもたちにとっての風評被害はいじめです。横浜市、それから、新潟でもありました。先週では山梨県でもありましたね。中学生、自殺も試みたと。まず、子どもにとっての風評被害、これはまだまだ福島というだけでね、もういじめの対象になってしまうんです。

そういった子どもたち、学校のほうも放射線教育というのをやっています。まさに、モニタリングポストは生きた教材なんですね。まさに生きた教材。身近にあるわけですから、子どもたちにとって、その防災教育、放射線教育というのは、やっぱり正しく理解し、正しく恐れるという言葉ありますけれども、やっぱり教育課程の中にもね、その放射線教育というのは位置づけて今やっているわけです。福島県ばかりじゃなくて、他県でもこの放射線教育というのがおろそかだからこそ、いじめが発生してしまうと思うんです。そういった構造。

それから、福島県ではそのコミュタン、三春町にありますよね、環境創造センター。私は、南会津の子ども、線量が低い、南会津の子どもだからこそ、そういった放射線教育、力を入れるべきだと私は思うんです。

これからの南会津から子どもたち、福島だったり、郡山だったり、東京に出かけます。そこで放射線知らないでは話になりませんよね。なので、南会津の子どもたちは、その原

発の事故のことだったり、放射線というのは怖いんだということを、やっぱりコミュニティ、福島で勉強させたいなと私は思っています。

それから、阪神淡路震災、5年～10年後でPTSDですね、ストレス障害、これがやっぱり発生してくると。まさに、今、子どもたちは8年を迎えますけども、これから心のケア、そっちが本当に大事になってくると思うんですよね。そういった意味からも、やっぱり生きた教材ということ、まず皆さん方にもわかってほしいなと私は思っています。

それから、三つ目は、保護者、一般住民の安心・安全のところですね。科学的には安全かもしれませんが、でも、安心は心の問題ですよね。ここが解決しなければ、なかなか納得できないと思うんです。だから、その辺のところを、放射線量はやっぱり目に見えませんが、可視化するというところは、やっぱりこのモニタリングというのは非常にメリットがあって、可視化できるもの、それに代わるものができれば、それに代わって私はいいと思うんです。その可視化するための何かバロメーターというようなものをね、そんなものをぜひ開発していただければありがたいかなと、そんなふうに思います。

最後に、モニタリングポスト、原発は今、再稼働していますけども、小学校とか、幼稚園、保育所、そういったところに逆に必置、必ずつけることと、そういった福島はモデル地区として、全国に発信していただけるような扱いにしていいただければ、ありがたいかなと私は思っています。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

3点ほどございましたけども、非常事態宣言が続いているということ、子どもの守るという、身近な教育の話もありました。それから、住民の安心という観点で、3点ほどコメントございましたけど、何かコメントございますか。

○武山監視情報課長 まず、緊急事態宣言がまだ解除されていないので、ここはそういうことで、まだ緊急事態のままということなんです。

我々、その緊急事態のままなんですけど、放射線の状況が変わってきているということ、考えたときに、このままでいいかどうかということを考えて、いろいろと考えているところで、それは一つの案としてこれをお示ししているところでございまして、時期尚早ということを御意見として伺ったというふうに思います。

あとは、子ども、確かに、今回子どもの活動をするところのやつを取るということなので、子どもを守るということについては逆行するのではないかなという、こういう御所見だ

と思います。

我々、どちらかというと線量が低いということをもって、別に子どもにターゲットを絞るというわけじゃなくて、線量が低いところをもって、どうなのかなということをお提案しただけなんです。

実は、先ほど申し上げました可搬型モニタリングポストというのを残すことによって、それも含めて果たせるのかなということもあったわけですが、近いところにあることにこしたことはないということだと思います。

ほかの市町村さんでも同じような御意見をいただいていますけれども、例えば、学校でも避難場所になっているところとか、そういうところはぜひ残してほしいとかという御意見もありましたし、いろいろ地域によって、多分、いろいろ実情が違うと思いますので、何とも言えませんけれども、ということが一つ。それから、あと、教材として使っているということで、これは、ほかの市町村さんでも言われていました。

それから、あと、PTSDの話なんですけれども、これは、私の理解では、あの事故が起きて、あのころは、そういう意味では、情報がない状態です。放射線が出ているのか、出していないのかわからないような状態だったと。わからないまま、いろいろとやらなきゃいけないかどうかという話もあったりとかして、いろいろ多分、御苦労されたという人が結構いらっしゃる。そういう人たちは、今、放射線の状況がだんだん変わってきてはいるけれども、やっぱりまだ不安ですということで、一様にあるということで、今の子どもさんというのですか、小学校に上がるぐらいになると、もう事故の記憶はあまりないのかもしれませんが、逆に言うと、ほかの市町村の中で御意見があったのは、風化させてはいけないので、こういうことがあったんだという一つのモニュメントとしてポストを残してほしいという御意見もあったんですけれども、子どもさんという観点からすると、そっこのほうなのかなと思っていて、むしろ保護者の方とか、そういう方で事故の経験をされた方とかという方に対して、まだまだそういう心のケアが要るのではないかというふうに思うところでございます。

あとは、今の話と共通するところとしては、科学的な安全と安心というのは違うんだと、こういう御意見で、おっしゃるとおりで、我々、科学的に見てこうだというふうには思っているんですけれども、皆さんやっぱり人それぞれ放射線に対する意識が違うと思いますので、なかなかここは難しい問題だなと思っています。安心がなかなかまだ、まだ不安

の状態なんだということの御意見というのは結構多々ありましたので、その御意見も承っているなというふうに思っています。

以上でございます。

○南山総括調整官 では、2回目ですね。ほかにまだ発言されていない方でありますか。

では、どうぞ、女性の方。

○参加者 もう一回質問します。

福島県内の放射線の監視体制ということで地図で赤くなっていますけど、栃木県とか宮城県とか、近くの県のモニタリングというのは、原発爆発当初はいろいろ報道されていたみたいなんですけれども、ある時期、ぴたっととまっちゃって、そのほかは報道されなく、今現在もされていませんけれども、その辺は、福島県だけの問題というふうに考えたのでは、近隣の放射能の影響のあるところとかもあるんじゃないのかなと思うんですけど、その辺はどうなんでしょうか。

○南山総括調整官 放射線の近隣の県の状況。

○武山監視情報課長 栃木県も宮城県とかも隣の県とかもモニタリングポストがございませう。やっぱり事故が起きてから少し増やしたりとかしています。

ただ、実は、福島県さんほどはないわけです。福島県さんは、どっちかという、これを全部足していただくと四千はないですけども、3,500ぐらいあるわけですね。実は、ほかの県さんは当然そんなことはなくて、むしろほかの県を全部足すと福島県ぐらいの数になるという大体レベルになっていまして。だから、ある意味、福島県さんが全国の半分ぐらいあるという、そういうようなイメージでお考えいただければと思います。それは、当然ながら、事故が起きて汚染されている状況だったわけで、要するに放射性物質が降った状況、ほかのところも降っていますけれども、やはり福島県が一番多かったわけですからね。ということで、こういう形で置いていて多いわけです。

我々、今回のやつも、だからほかの県さんと比べたときも、結局、放射線のレベルがだんだんほかの県と近づいてきているというところもあって、そういう状況も考えると、このまま少し数を削減できるのではないかというふうに考えていたわけです。ということで一つの案として今日はお示しをしたということでございまして、いわゆる、我々は、基本的には放射線レベルが低いということで、その低い状況に応じてモニタリングポストも配置をするのがよろしいのかなというふうに考えたということでございます。

○南山総括調整官 では、その隣の方。

○参加者 では、いま1回だけ。農家の生産者の立場でいくと、今、農家が非常に山際で鳥獣被害を受けてものすごい状況なんです。そうすると、やっぱり命をいただいていったときに食べられるジビエ料理ということで、加工場をつくってください云々と。例えば、イノシシなんかだと2年目で2回、4匹ずつ繁殖するんですよね。ものすごい勢いで増えているんですよ。本当に、それ、申請するといいかという許可はもうノーコメントでだめですと返ってきちゃうんですよ。やっぱりそれを食べられるような状態になって初めて安全と、こうなってくるんですよ。

私らも原発をのぞいたときに、有機肥料を使って落葉樹、いわゆる木の葉を使って化成肥料、化学肥料を使わない肥料をつくりたいと。そうすると、先ほどの藁草じゃないですけど、やっぱり落葉樹、落ち葉を安心して使えるかということ、それもだめと返ってくるということは、もうだめなわけなんです。

そういったことを本当にできるようになってから減らすということで行くならばということになりますし、あと、未来ある子どもたちの関係の学校関係なんていうのは、逆に増やしてほしいという感じになってきますから、ぜひともやっぱりそこを慎重に対処していただきたいと思います。

くどくなりますが、よろしくをお願いします。

○南山総括調整官 ありがとうございます。いいですか。

ほかに、お願いします。

○参加者 クロサワといますが、今、子どもの問題が出ましたが、子どもの病気、健康の問題、そして、それを抱える両親の不安、心配などはまだまだ払拭されていないのが現状だと思います。

それから、今ほどもありましたように、食の安全ですね。米や、あれは農林事務所で検査しているシイタケ原木の放射線線量ですね。これも今までの説明の中にありましたように、非常に高いものがあります。そういう高レベルの放射能が検出された木は販売、あるいは、シイタケ原木に売ることにはできません。

それから、観光の問題。あるいは漁業組合ですね。この辺の漁業組合の風評問題、今まで大変苦労しております。

今ほどありましたように、第一原発の廃炉作業に伴う影響ですね。これ、決して安心できるわけはありません。今までも東京電力はごまかし、ごまかし、今まで原発事故が起きる前もごまかしながら国民に報告されていません。

それから、柏崎原発の問題であります。ここは偏西風の風に乗って第一原発や第二原発よりも早く来ます、放射線が。さらに、福島第二原発の廃炉の方向性は示されましたが、これからの方向性は示されておりません。いろいろ生活していく中で、まだまだ高レベルの放射線が、この南会津町において、線量が多く出されております。やっぱり町民の安全・安心を暮らしを担保するためには、放射線量をリアルタイムに可視することが最も必要であります。

今ほどもありましたように、撤去するどころか、もっと増やしてほしいというのが町民の声であります。そういう立場に立って継続とさらに増設されることを要請いたします。

以上、お願いいたします。

○南山総括調整官 ありがとうございます。何かコメントございますか。

では、これにつきましては記録させていただきます。ありがとうございます。

ほかにございますか。どうぞ、御遠慮なく。

○参加者 御質問しますが、本当に、今、この線量を測る機械、富士とか日立とかいろいろあると思うんですが、時計にシチズンとかセイコーとか……けど、ぴたっと今何時だと、ぴたっとわかるわけ。ただ、放射線の線量を測る機械はいろいろなのがあるんだと。創作もできるし、いろんなごまかしもできるし、そういうことで今まで何回となく発表してきたけれども、いろいろ違うという中身が、俺らはやっぱり信用できないというか、ぴたっと時計みたいに見れば、何ぼだということがわかるんならいいんだけど、機械によつてばらばらだという関係が一つと、俺も、これ、中身わからないできたけれども、見直しというから増やすのかなと思ってきたわけ。そうしたら、話を聞くと減らすような話。これは大変だと思うのは、俺らも、これ、百姓をやっているものだから、木の葉をとってきて、その線量、汚染を測ってと持っていったら、これ、わっというほど上がっているわけ。空間線量というのは、風が吹いて高さでおいおい落ちていくと思うんだけど、土の中はすごいと思う。

さっき、こっちの脇の人、原木検査をやっているというけれども、原木検査をやるのも、こういう山一つ、例えば買ったとして、10カ所ぐらい端々を測って、大丈夫な木ばかり、この山を測ってみると……すぐわかるわけ。10本なら10本、立木、別なところ、そういう山を持ってくる……、大丈夫だという山の木を持ってきても、やっぱり測ると、食べ物だから50Bq以上あるわけ。そして、だめですよ。まず、機械が、そういうだめですよってなるわけ。

そういう関係で、……として、三つぐらいはそういう、いまだに線量があるということ。これ、やっぱりよく規制委員会さんが把握してなくて、福島県南会津はないからと言って。これはとんでもない話。それで、今だって、野外の木の葉を使ったのは農作物には使ってはだめですよ。農協の人だ、これ。

そういう形で、今もって大変なの。野菜をつくろうと思ったって、つくれないし、そういう形でなかなか大変なのということはわかってもらいたいと思う。

そういうことで、東京オリンピック、福島県の野菜を使われないのではないかということをもみんな心配している。線量の関係で……。いっぱいまだ言いたいことあることあるんだけれども、以上。

○南山総括調整官 何かコメントは。

○武山監視情報課長 まず、モニタリングポストですね。これ、基本的には地面とかにくっついていて放射性物質ですね。そこから出てくる放射線を測っているわけですね。だから、ということなんです。

いわゆる木の葉とかに含まれている放射線とかというのは、放射性物質がついているわけですけども、それは、実は、その物質自体がどのくらいの数あるのかはわからなくて、それは別に測定しないといけないんですね。ということがまず一つありまして、おっしゃるとおり、だから、空間の放射線が低いからといって、じゃあ木の葉とか、そういう木だとか原木とかの放射性物質がないのかといたら、それはないということにはならなくて、あるわけです。一定程度あります。

ただ、空間に出てくる放射線がちょっと少ない、それがある意味、ほかの県で高いところと大体同じぐらいになっていますというのがありますということですので、モニタリングポストと直接関係ないんですけども、そういったものがまだ放射性物質が含まれているということはよくわかります。特に山とかはまだまだありますので、ということだと思います。

あとは、何かありましたっけ。それだけですかね。

ということで、ちょっと実情はそういうことで、私もよくわかります。だから、まだ汚染されている地区が、ところがあって、まだ放射性物質が付着していますということなので、いろいろと、多分、御苦勞があるということは本当によくわかります。

○参加者 測定器。

○武山監視情報課長 あと、測定器の数字がいろいろ違うんだという、こういう御意見が

あったと。どうしてもやっぱり場所が違おうと変わってしまうんですね。何かと言うと、放射線は絶えず出ているというか、要するに確率的な現象でやっぱり変わるものなんですね。必ず変わるもの。自然界、別に福島だけじゃなくて、ほかのところに行ってもそうなんですけど、こういうので、これで、多分、測りますよね。これで測ったところで、やっぱり絶えず変わります、放射線は。

要するに、放射線は放射性物質から粒が出てくるわけですけど、それが気まぐれに出てくるわけです。だから、どうしても変わってしまうんですね。ちょっとこういう時計とは違って、時計は必ず同じリズムで刻みますけれども、どうしても放射線はそうなるので、機械を見て数字が違うというのは、これはいたし方ないところでございまして、狂っているわけではなくて、先ほど申し上げましたように、必ず1年に1回、我々、チェックしていますので、そういうことではないということを御理解していただければと思います。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

ほかに。では、どうぞ。マイクがまいます。

○参加者 この町に住んでいますオカムラといいます。

原発事故の翌年の8月から「さよなら原発南会津集会」という会をつくって毎月1回、田島駅の前で集会をしたり、町内をデモ行進を続けています。

この話がどうも原子力規制委員会の方々というのは何を考えているのかというか、現状、住民感覚とこれほど、もう何回かやられておわかりになっていると思いますけれども、そういうもの、そういう感覚で原子力行政というのをやってもらっていいのだろうかという感じがします。

皆さん発言された方、ここまで聞いてこられた方も、その落差というのか、被災地の南会津町では具体的な被害みたいなものはなかったわけですけども、僕の家で一番多かったのが爆発の翌々日に0.09 μ Svですか、そのぐらいで済んだわけですけども、その後、被災して来られる方々、ここは大丈夫だと言われても、子どもを育てるのに心配だ、ましてや女の子を浜通りでは育てられないという方々が大勢おられます。

それで、その中で、このモニタリングポストというものも、原発は安定しているし、どんどん下がってきているんだから、下がっている場所からは動かして、もっと大事なところを手厚くしようという話ですよ。その話の組み立て自体があまりにもかけ離れているなというのがここまで聞いてきた印象で、どうしてくれとも僕としては言いようがないわ

けですが、例えば、森林の森を使う方々の話をあれしていますが、その、例えば、浜通り、中通り辺りの森林については、ほとんど林野庁がと言っていますけど、ほんの縁を調べているだけですよね。どんな事態になっているのか、それについては全くわからないままですね。

それで、福島市の信夫山というすばらしい山の周りの公園があつて、そこへ行ったことがあります。表土を全部はがしているところ、そうでないところ、一体どういう基準でこういうふうに行っているんだろうなという疑問に思います。

本当に怖いのは、原発事故というのは一度起きちゃったら本当にどうにもならない、放射能って厄介なものだなというのを自分でも気がつく前、よくわかっていなかったというのを反省しているわけですが、これは何が何でも一日も早く全原発をたたんで廃炉にして、それだけでも大変な年月がかかることなので、ましてや再稼働などに何点かをチェックしてオーケーですなどということをしてほしくないというのが、これ以上もう申し上げようがないですけれども、要望です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

何かコメントありますか。

○武山監視情報課長 原発ですね。なかなか原発自身を全てなくすかどうかと、これはいろいろ多分御意見があつて、原発ゼロ法案が出るとか、出ないとかという、政治的な話もあります。

我々、規制委員会は、基本まず、今、我々は法律に従って仕事をしていますので、原子力利用というのがまず前提になっていて、それを利用する場合には、こういう安全基準をクリアしてくださいという形で我々が基準を定めて、それでもって審査をしたり検査をしたりしています。また、それをもし、そうはいつでも絶対安全はないので、必ず、そういう意味からすると事故が起きるといふ可能性はあるわけです。だから、そのときには防災という形でいろいろと体制を組むということで、一つのこの放射線の監視もその一つに含まれていると思いますけれども、いう形で我々としては今やっているところでございます。

ということでございます。

○南山総括調整官 ほかに何か御質問、御意見等いただけますか。

では、一番前の方。どうぞ、お座りになったままで結構です。

○参加者 モリと申します。

皆さんの意見でもう出尽くしたのかなというような思いもあるんですが、私、風評被害

についてちょっと気になるものですから、浜通り、中通り、そちらと比べれば、こちらの地域はかなり線量は低いです。でも、今、意見が出ているように、農作物については、もうそれに対して放射線量が高くてだめですよというのはあるんですが、大丈夫な物もかなりあるわけなんですね。放射線量というのは栃木県だとか宮城県よりも低い線量の中で、そういう中で、私にしてみると、福島県原発だけがなんで福島原発なんですか、日本全国の中で県名を使っているところは多分ないと思うんです。ということは、この地域の中でもなんで福島県原発だけ福島と言ったのか、おかげで会津のほうの我らのところまで風評被害で農作物がいい値段で買ってもらえない。確かに、東電からは補償金は出ていますけれども、補償金をもらったものでそれでいいというものではないと。

相手が福島県の作物だと思う、その気持ちは、訴えて直してもらうしかないわけなんです。訴える手段というのは何ですかと聞いたら、やっぱりモニタリングポストで、こういう数値なんですよと、うちのほうはこれだけ低いんですよと。それと、先ほども出ていますけれども、米の場合は全量検査、それから、シイタケ原木なんか1本1本全部調べてやっていると。そういうようなことも積み重ねなのかなと。

それで、一般的な話をするには、データのモニタリングポストで出てきた数値を訴えていくというのが大切なかなと思うんですが、そういう意味からすると、量を減らすのではなくて、多くするというのも、私は言いませんけれども、今までどおりに残していただきたいな、そういうお願いをしたいということです。

○南山総括調整官 ありがとうございます。何かコメントありますか。

○滝田課長補佐 今回の風評被害の話について、一つ私が経験したことをちょっと述べさせていただきます。

実は、私、風評被害対策について、台湾や中国、その他いろいろ輸入関係の規制をしている国に対して風評被害対策として福島の実情というのをお話しさせていただいたことがあるんですね。

その中で、中国大使館に対して説明させていただいたときに、今おっしゃったように、福島県内にはたくさんのポストがあって、それを見ていただければ低いことがわかりますという形で説明させていただいたときに、中国大使館の方から、いや、ちょっと待ってください。中国人としてはそうは考えていないんですよと。実は、低いというのは、それは見てもわかるんですけど、やはりなぜこんなにたくさんの数のポストがあるのか、しかも低く下がって安定してきているのであれば、それなりの適正な数にすればいいんじゃない

んですか、まだこんなたくさんの数を維持しているということは、まだ福島第一に問題があったり、実はまだそんなポストのあるところには問題があるのを隠しているんじゃないんですかというような言われ方をしました。やはり私、物すごくショックを受けました、それを聞いて。

やはり安心であるから、低いから安心なんですよと訴えかけていたのに、そうじゃないやはり全然違った見方をされる方がいるんだなと。

そういったところも含めて、私、本当に適正な数もそうでしょうけど、適正なモニタリングというのは何なんだというのを考えなくてはいけないというのを思い知らされました。

実際、いろいろなところをこうやって聞いて回ったりとか、その他自治体の方々とお話しさせていただくと、やはり風評被害対策ということをもものすごく言われるんですね。その中でも逆に、ポストがあるからいまだに問題なんだと言われる方もございました。

そういったところも含めて、本当に何が安心につながって、また風評被害対策にはどうしたらいいのかということも、これは皆さんも一緒に考えていただいて、いい方向に向かっていけばというふうに担当としては思っております。

○南山総括調整官 どうぞ。

○参加者 すみません、繰り返しになるんですけども、今日、私、ここに来たのは、学校関係、学校それから保育所、幼稚園ですね。そこを先に撤去するというところでちょっと、自分、教育に携わっていた者なので、どうしてもそこがちょっと理解に苦しむんですね。なぜそこを先に、優先的に外そうとしているのか、そこをちょっとお聞きしたいのと、子どもを守るということで甲状腺検査がございますよね。これについても1期、2期が終わって、今度3期目に入るかと思うんですけども、その辺の動向あたりも、そちらはどうなるのか、2点お願いします。

○南山総括調整官 いかがですか。

○武山監視情報課長 まず、学校をなぜ先にとるのかと、これは、だから、我々、学校のやつは、実はこの線量測定システム自体を設置するときに、これは我々の組織が発足する前で文部科学省さんがやっていたときだと思うんですけども、そのときに実は、基本的に放射性物質が降って高い状態を確認するというので始まったわけですけども、これは、実はある程度時間が経ってしまったら、もうある意味低くなってきた場合には、とるということをお前提にこの事業が始まったわけです。

要は、先ほど言ったように、放射線レベルが下がってきていて、例えば、除染した土と

かも全部なくなって、ある程度もう線量がおさまってきたら、先ほど言った除染基準が0.23というレベルだとすると、それよりも低くなっているような状態であれば、もう放射線を確認せずとも普通に生活できるだろうということで、ですので、そのレベルになったら、もうこれはお役御免なんではないかということで最初は思っていたものなんですね。

そういうことがあって、我々としても、そういう前提で事業が始まっているということをお役御免を我々は引き継いでいたので、その観点で、実は我々としても、当然ながら先ほど言った科学的な安全ということも考えると、その方針を踏襲しても大丈夫だろうということで我々は考えて、このまず赤いポストについては低いところから順番に撤去ができるのではないかとこのように考えたのがまず最初でございます。

我々、先ほど言ったように、可搬型モニタリングポストというのは、これは全域的にある程度汚染されている地域を見るということで、これはまた別の用途として置いた、目的として置いたわけで、実は、モニタリングポストについていろいろ目的が違うわけです。皆さんはそうじゃないかもしれないけれども、我々のほうでは、そういう目的別に置いて、目的が果たされてしまったら、もうそれはお役御免にしてほかのやつでカバーしているからそれでいいだろうというふうな我々は考え方をしていたわけです。

だけど、皆さん、我々これまで住民説明会を聞いて、我々はそういうことで思っていたんだけれども、どうも皆さんはそう思っていなくて、全てのモニタリングポストについて同じように見ている、ある意味、地域によっては生活の一部になっていますとかという方もいたりとかしてということなので、ちょっと認識のずれがあったということは、今、思っているところでございますけれども、そういうことでございます。

○参加者 これからの日本を背負っていくのは子どもたちですよ。その子どもたちを守らなきゃ、守るのは大人の責務だと思うんですけどね。

○武山監視情報課長 先ほど言ったように、我々、子どもたちを守るという観点でも、やっぱりモニタリングポストの数というか配置ですね。配置について、じゃあ学校に全部なきゃいけないかどうかというところが、ある意味考えてと思っています。私どもとしては、学校に全部なくてもいいのかなと思っていたわけです。要するに、ある程度あって。

○参加者 その辺がやっぱり危機管理意識が問われるところだと思うんですけどね。まあ、堂々めぐりになるんですが、甲状腺のほうはどうなりますか。

○武山監視情報課長 甲状腺検査は、私どもやっていなくて、実は環境省の環境保健部というところでやっているんですけども、ちょっと甲状腺検査については、ちょっとすみ

ません、どういう状況になっているかは、ちょっと私のほうではわかりません。

○南山総括調整官 はい、どうぞ。

○参加者 2回目の発言で申し訳ないんですが、やっぱり子を持つ親の心配は、あなた方が考えている以上に深刻な問題であります。

今ほどありましたように、学校、幼稚園、高等学校、その辺を中心に撤去すると、見直すということは、今、モニタリングも8年目だと、そろそろ予算もなくなる、年間6億円かかる、先ほどありましたように。

結局は財政が先決であって、国民の命と権利を守るということは、あなた方は考えていないのではないのでしょうか。そうでしょう。

○武山監視情報課長 我々は、要するに人と環境を守るということが任務ですので、それは考えています。

我々、要するに、予算もそうなんですけれども、基本的には毎年毎年、合理的なある程度の線というのを常に見直さなきゃいけないことになっていきますので、一つの見直しの一部として我々はやっているところでございまして、決して人と環境について守るということについて、それに反してやろうとは思っていません。

そういう意味からすると、皆さん、今回、こういうふうに御意見をいただいているというのも、我々はこう考えるけれど、どうかということをお皆さんに聞いた上で、また方針の見直しも含めて考えなきゃいけないと思っていますので、毎年どうしてもやっぱり予算も限られていますので、我々としても精一杯のことはやりたいと思っています。その精一杯のことをやるためにも、いろいろ御意見を聞くということで、今回、聞かせていただいているというふうに考えていただければ結構だと思います。

○参加者 先ほどありましたように、線量が高いところは学校だったと、中心に。でしょう。田島だと第二小学校田島、あるいは南会津高校とか、伊南とか、それ、線量が高いんですよ、正直言って。

今ほどあったように、農業の問題とか、森林の問題、環境の問題、全体的に高いんですよ、それは。ただ、山のほうにそういう線量計がなかったりして、またこの辺のキノコを販売するとか、いろいろあるでしょう。

安心・安全のところではないですよ。それを見直すということはどういうことなんですか。

○滝田課長補佐 今、高いと言われているんですけど、なぜ見直すかと言いますと、例え

ば南郷小学校のところでは例えば0.085とかというのが大体最近の数字だと思います。それは、やはりうちの課長のほうからも最初のほうで説明がございましたけど、グラフで見えていただいたものですが、7ページですね。こちらが全体の平均という形であります、ここに帯状で示した数値でございますが、例えば大きいところでは、例えば山口県が0.115、これもあくまでも平均でございます。実際には現在も0.15、0.13とかというふうになる時もあります。だから、そういったいわゆるほかの地区ですね。他の地区から比べても実際こちらの町でのポストのあるところは高いというふうにはなかなか我々としては認知しがたいというところがございます。

実際、先ほどもちょっと説明しておりますが、もともと子どもたちの活動する施設に対して設置したのは、要するに、当初、高い線量の放射性物質が福島県内に散らばり、やはり子どもを守ると、子どもに対してどうなのかということで、結局、その状況をしっかり監視、確認するという事で各子どもの施設、幼稚園から学校に設置させていただいたのでございます。

実際に24時間監視ですね。現在もそうですが、人を張りつけて監視させております。ですが、やはり当初目標としましては、平成24年度末までの運用だったんですね。その後のについては、状況を見て引き続きやるかどうかということで、実際には現在まで引き続き運用してきているわけなんですけど、やはり目的としては、いかに高い数値に対してどのような影響があるのか、実際どのくらいなのかを見ていくと。それが低くなり、現在のように安定してきている状況であれば、24時間人を張りつけて監視する必要まではないだろうということがございます。

実際に、新たにこれから事故が起こったりなんかした場合に対して、見るポスト、いわゆる監視用のポストとして、我々はリアルタイム線量測定システムは考えておりません。いわゆる中長期に監視することのできる、また高い線量から低い線量まで測ることのできる可搬型ですね。こちらのほうを重視しております。しかもリアルタイム線量測定システムについては、必ずしも、例えば事故が起こって全ての放射性物質の線量が測れているかどうかというのちょっと疑問のあるところでもございますし、ですので、やはりこういった状況になって、当初の政策目標に関しては一応完了しているというふうに考えて、一旦、整理させていただきたいというのが当初の案でございます。

ですが、やはり皆さんの意見を聞いて、どういったモニタリングか、先ほどもちょっと私のほうから述べさせていただきましたけど、やはり実際にはポストではない、それ以

外のところ、低く安定してきている状況では、ほかのモニタリングが必要なのではないかと。ポストではなくてですね。実際の現状をリアルで表すような別の方策を考えなくてはいけないのかなと逆に思っている次第でございますので……。

○南山総括調整官 すみません。時間になっていきますので。

追加で何かございますか。よろしいですか。

○参加者 結論から言いますと、可搬型モニタリングポストは11台と、南会津に。そして、リアルタイムが39台と。この39台を見直すという提案だと思うんですが、見直すということは減らす、なくすると。

結局、今ほど話がありましたように、もっときめ細かに調べるには可搬型モニタリングポストのほうが広範に調べることができるということであれば、リアルタイム線量測定システムから可搬型モニタリングポストに変えていくとか、そういうやり方もあるでしょう。単に数を減らすということではなくして。

○南山総括調整官 リアルタイムのものを設置場所、同じ場所でリアルタイムじゃなくて可搬型のポストにしてはどうかという御提案ですね。よろしいですか、そういうことで。そういう御提案があったということで記録をさせていただきますので、よろしゅうございますか。

○参加者 はい。

○南山総括調整官 すみません。司会の不手際がございまして、20時予定のところを若干オーバーしてございます。この場で何かこれだけはということはございますか、ほかに。

もしよろしければ、お時間になってございますので、このリアルタイム線量測定システムの住民説明会につきましては、これで南会津町につきましては終了という形でさせていただきますと思います。

本日はどうも長時間にわたりまして御参加いただきまして大変ありがとうございます。ありがとうございました。